

東北・北陸地域に適する タマネギの春まき夏どり作型

東北・北陸地域では、水田転作物目として機械化体系が適用できるタマネギ栽培が注目されています。しかし、これらの地域で、慣行の秋まき栽培では越冬時の障害や病害あるいは融雪時の湿害等によって生産性が不安定となるため、収量も低く栽培面積の拡大には至っていません。そこで、農研機構東北農業研究センターでは、岩手県、山形県、富山県、弘前大学との共同研究により、これまでの技術を見直し、国産タマネギの流通量の少ない7、8月の端境期出荷を可能にする春まき夏どりの作型を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 開発した春まき夏どりの作型は、1月中旬～2月中旬に播種後無加温ハウスで育苗、4月に定植し、7月上旬～8月中旬に収穫する作型です（表1）。本作型の収穫時期は、本州・九州産と北海道産が流通する間の端境期となります。
2. 秋まき用中生～晩生品種の中から各地域の気象条件にあった適切な品種を選択します。秋まき用品種では、播種・定植時期が早いほどりん茎重が大きくなり、収量が増加する傾向があります。推奨される播種時期は、北東北では2月中旬、南東北および富山では1月下旬です。早生の品種ほど播種・定植の遅れによる収量低下が著しくなります。
3. 岩手県および富山県における畑地や水田での現地実証では、収量 4t/10a 以上の事例が得られています。
4. 公表したマニュアルでは、上記のほか、圃場準備、施肥、水分管理、雑草・病害虫管理、収穫時の取扱い、内部品質などについて記載されています。

表1 タマネギの慣行作型と新作型

作型	地域	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
秋まき(慣行)	東北以南 (主に西南暖地)				収 穫					播 種	定 植		
春まき(慣行)	北海道		播 種		定 植					収 穫			
春まき新作型	東北・北陸		播 種		定 植			収 穫					

☆ 活用面での留意点

1. マニュアル「東北・北陸地域におけるタマネギの春まき栽培技術 技術解説編」（2016年2月29日）は次のURLで見ることができます。
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/062843.html
2. 詳しいことは、農研機構東北農業研究センター・畑作園芸研究領域・露地野菜グループ（TEL:019-643-3547）へお問い合わせ下さい。